

発達協会セミナー：発達障害児へのセラピー

ことばをふやし 広げる指導

言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル

三好純太

本講の概要

◎語彙(単語)の発達、評価、
および指導法について

◎おおむね習得語彙50語以降の

語彙の広がりを対象

語彙の発達

	●習得語彙数(表出)	●習得語彙の特徴
1才半	50語	事物名称が中心 幼児語が多い
2才	200~300語	述語(動詞・形容詞) の増加
4才	1000語	抽象語の増加

語彙発達の特徴～初期50語まで～

- 獲得の速度がゆっくり
- 消失語が多く、定着度が低い
- 語の過大般用が多い
- 事物名称が中心
- 最初期は、大人との社会相互作用に密着したことばが多い(挨拶など)
- 理解と産生の間には、およそ半年の差
(理解の裾野の必要性)

語彙発達の特徴～50語以降～

- 50語を境として、語彙は急速に増大
 - 命名の洞察
 - 語の使用範囲の限定
- 50～100語産生で、2語文に移行
- 200語以降、動詞・形容詞などの述語が増加
- その後、徐々に助詞・助動詞などの機能語、抽象名詞が増加

語彙習得の理論

「ことばの発達と障害」第1巻 第3章より

①生得的アプローチ

②社会的相互作用アプローチ

1) 養育者による入力の調整

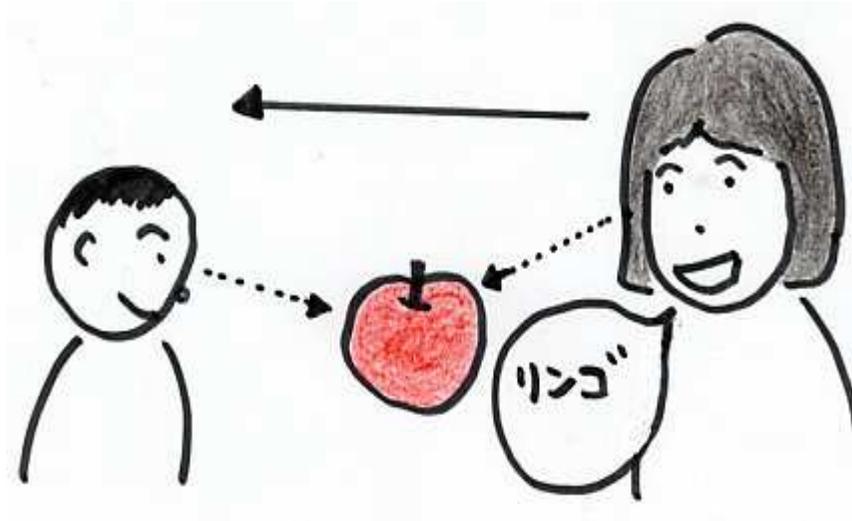
2) 養育者の意図を読み取る子どもの能力

● 生得的アプローチ

事物全体制約	事物に対して与えられた語は、 事物全体に関する名称
カテゴリー制約	事物に対して与えられた語は 事物が属するカテゴリーの名称
相互排他性	1カテゴリーに、1名称

●社会的相互アプローチ

① 養育者による入力の調整

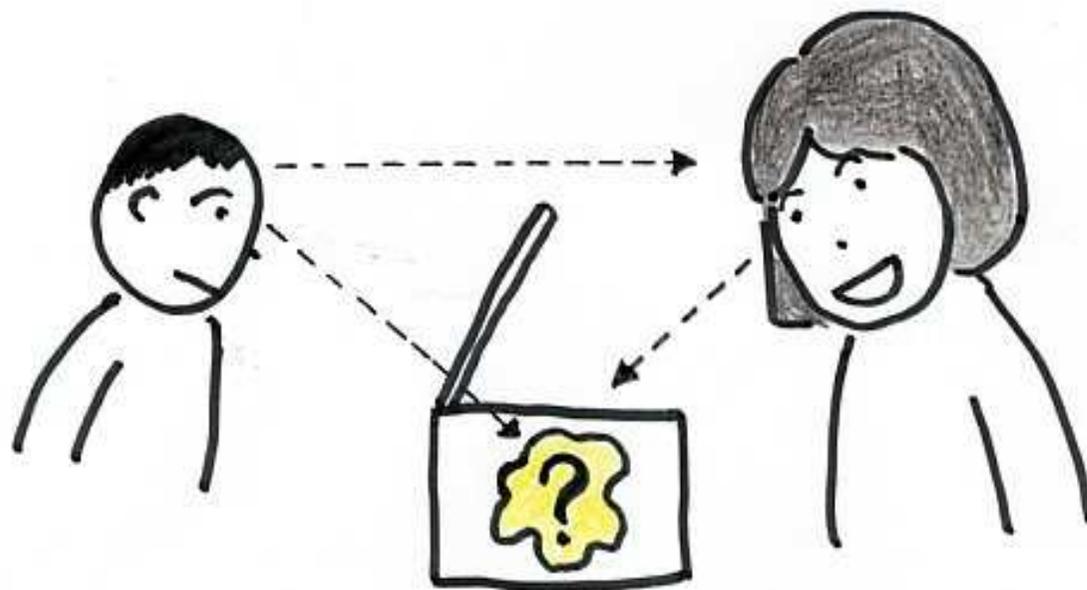


★不規則・曖昧な場合も多い



語彙の類推・・・動作・オノマトペの共起

② 養育者の意図を読みとる子どもの能力



* 視線

* 動作

★語彙習得の重要な因子

- 音韻認識能力
- 統語能力
- 概念形成
- 記号化能力
- 構音能力
- 状況認識能力
- 動機(要求・関心)
- 記憶能力

コミュニケーション環境

認知・思考

概念

記憶

状況認識能力

言語

音韻認識能力

構音能力

統語能力

感情・意志

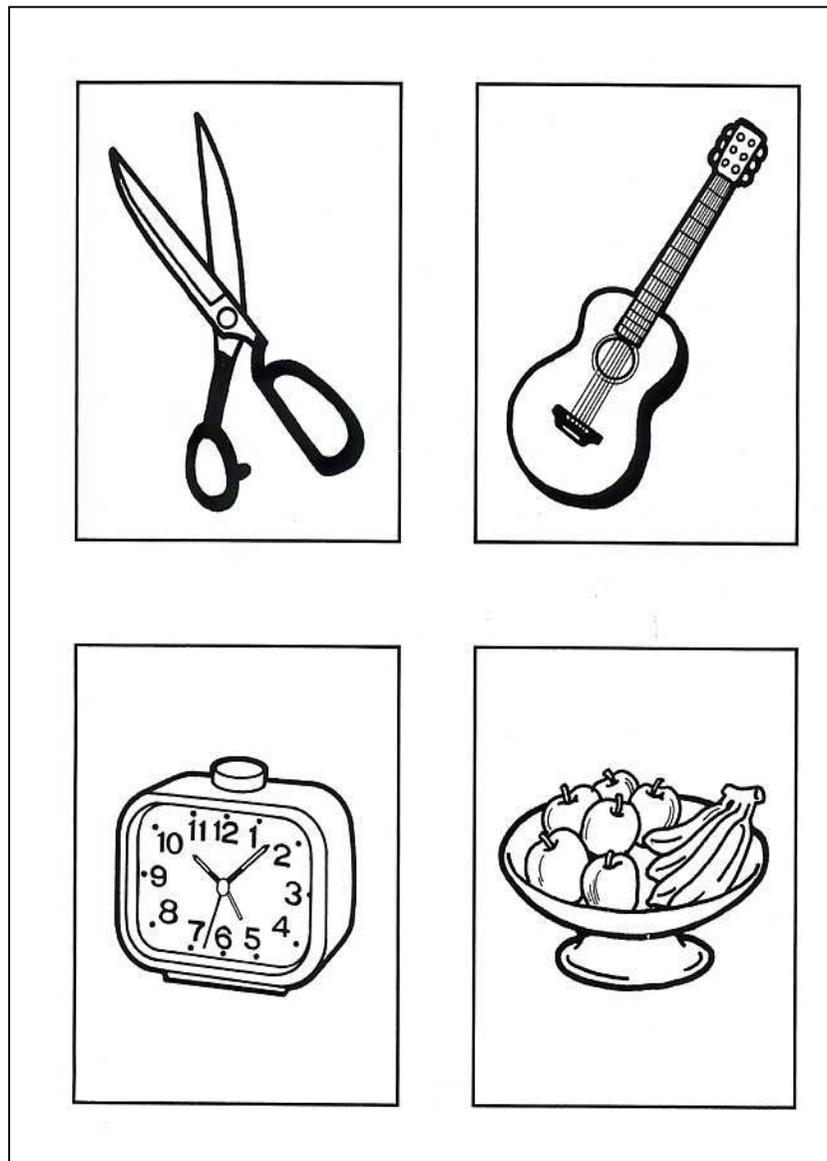
動機
(要求・関心)

記号化能力

語彙の評価

- ①習得語彙数 : 質問紙などによる測定 等
- ②語彙水準 : 絵画語彙発達検査(PVT)
ITPA「ことばの理解」 等
- ③語の運用能力 : 日常会話での評価 等

● ITPA「ことばの理解」



※ITPA言語学習能力診断検査より転載

語彙の指導 ～ST的手法の分類～

① 認知・言語的アプローチ

② 語用論的アプローチ

● 認知・言語的アプローチ

代表的手法 ● 〈S-S法〉に基づく指導

国リハ式〈S-S法〉言語発達遅滞検査

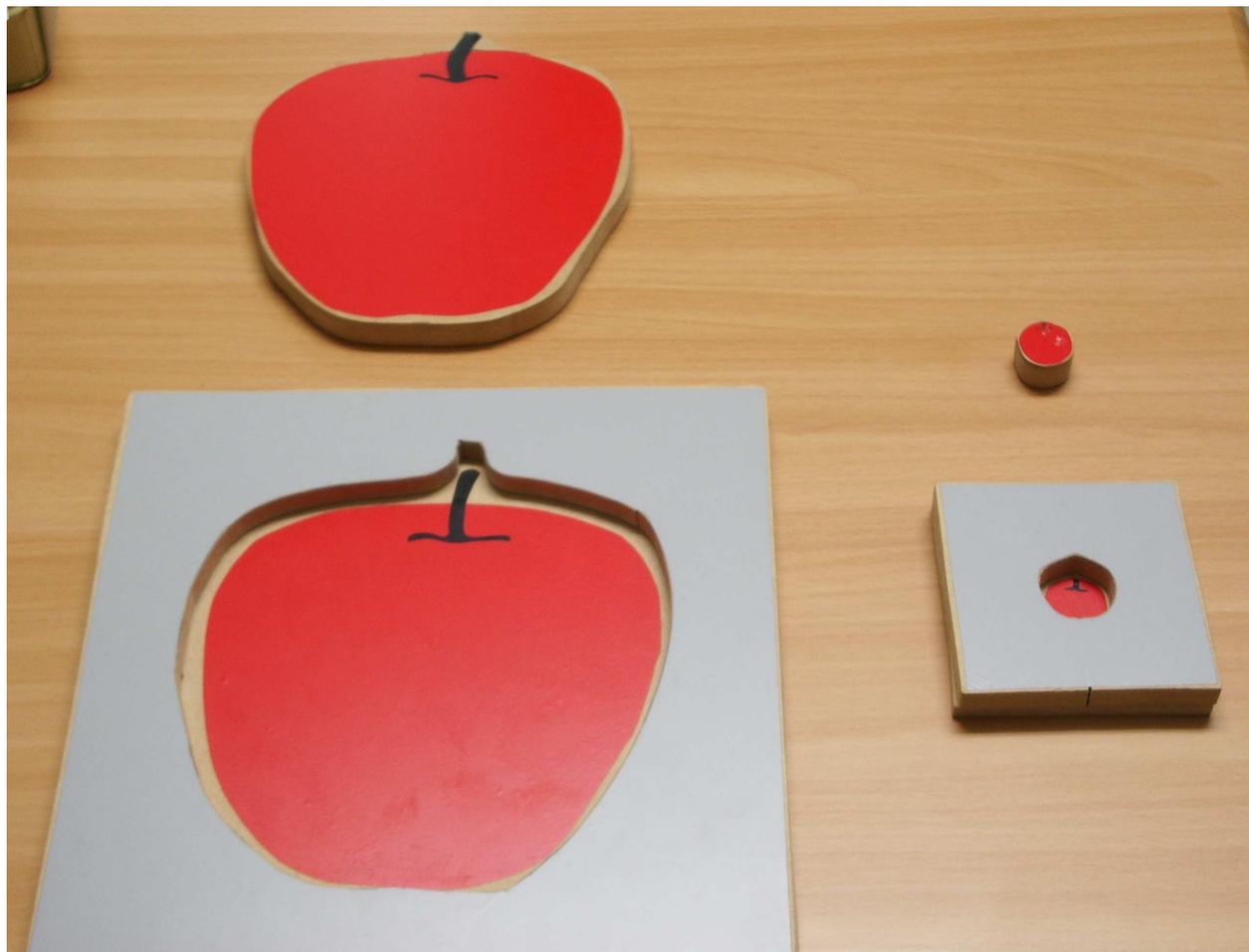
* 目標領域・指導目標の設定

Ex: 大小などの比較語の訓練

● <S-S法> 評価シート

4-1 (2語連鎖)	7	色+事物	(1)/4形式 2:1
		大小+事物	
	6	動作主+動作	
		対象+動作	
3-2 (音声記号)	5	色 (3)/4	(2:10)
		大小	(2:1)
		動作語成人語 (3)/5	(1:10)
		身体部位	
	4	事物名称成人語 /16	(12)/16 1:10 (3)/16 1:7

■ 大小の学習



● 語用論的アプローチ

代表的手法 ● インリアルアプローチ

* 日常的コミュニケーションを通しての訓練

Ex: 伝達場面設定型指導法
意味的随伴性

● 伝達場面設定型指導法

スクリプト(生活文脈)からの言語獲得

買物ごっこ

ことばかけ 「くださいな」



品物の選択 「～ください」



お金をはらう 「ありがとう」

語彙・文法

コミュニケーション

主導性

能動性

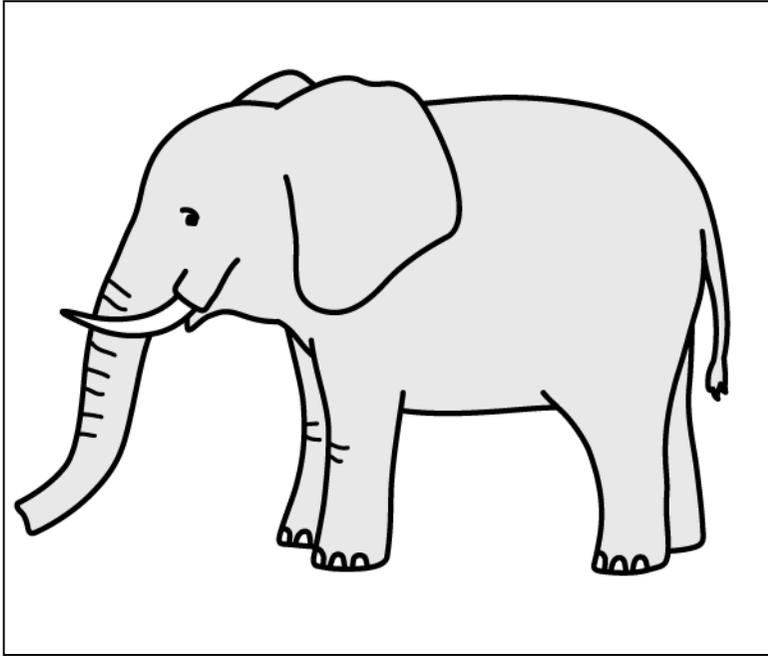
語学教育的手法の分類

- 直接的方法 …………… 実物(実際)による方法

- 間接的方法
 - ◆ 非言語的方法
 - 代用事物による方法(写真・絵カード・模型etc)

 - ◆ 言語的方法
 - 説明法 ex: おどろくって、びっくりすることだよ
 - 文型法/例文法 ex: ハサミで 切る

● 学習素材



指導プログラム

～認知・言語的アプローチを中心に～

指導の流れ

● 身振り記号 → 幼児語 → 成人語

● 事物名称 → 動作語 → 比較語・カテゴリー

→ 位置・数記号

→ 疑問詞

→

● 事物名称(基礎語) カテゴリー内分化・細部の名称

★ 指導語彙の選定

表出 → * 日常生活に即したもの * 関心の高いもの
* 構音の容易なもの * 身振りの容易なもの

(初期)

- ・目標語の設定
- ・記号化への
気づき
- ・動機付けの活用
- ・発声・構音練習

(拡大期)

- ・統語規則の学習
- ・音韻・韻律の訓練
- ＊語感の重要性
- ・述語の獲得・活用
(動詞・形容詞)
- ・発声・構音練習

(辞書期)

- ・明示的知識
- ・定義・説明能力
- ・メディアからの
吸収
- ・抽象語彙の習得

要求



叙述



思考表現

メンゲレガパビフヨゲベゼツタ

● 統語認識

メンゲレ が パビフ を ゲベゼッタ
S O V
(主語) (目的語) (動詞)

※「語彙の研究と教育」より引用

●音韻・プロソディの認識

●音韻弁別 カサ ⇔ アサ

●拍(モーラ) ● ● ●
 タ イ コ

●アクセント デンワ トマト

●長さ マチ ⇔ マーチ ⇔ マッチ

指導例 「色名の学習」

- 色の異同弁別

↓ :アカはアカに キイロはキイロに

- 事物の属性の概念の形成

↓ :りんごを赤くぬれる

- 事物色名の学習

↓ :りんごの色はどれ？ / 「りんご色！」

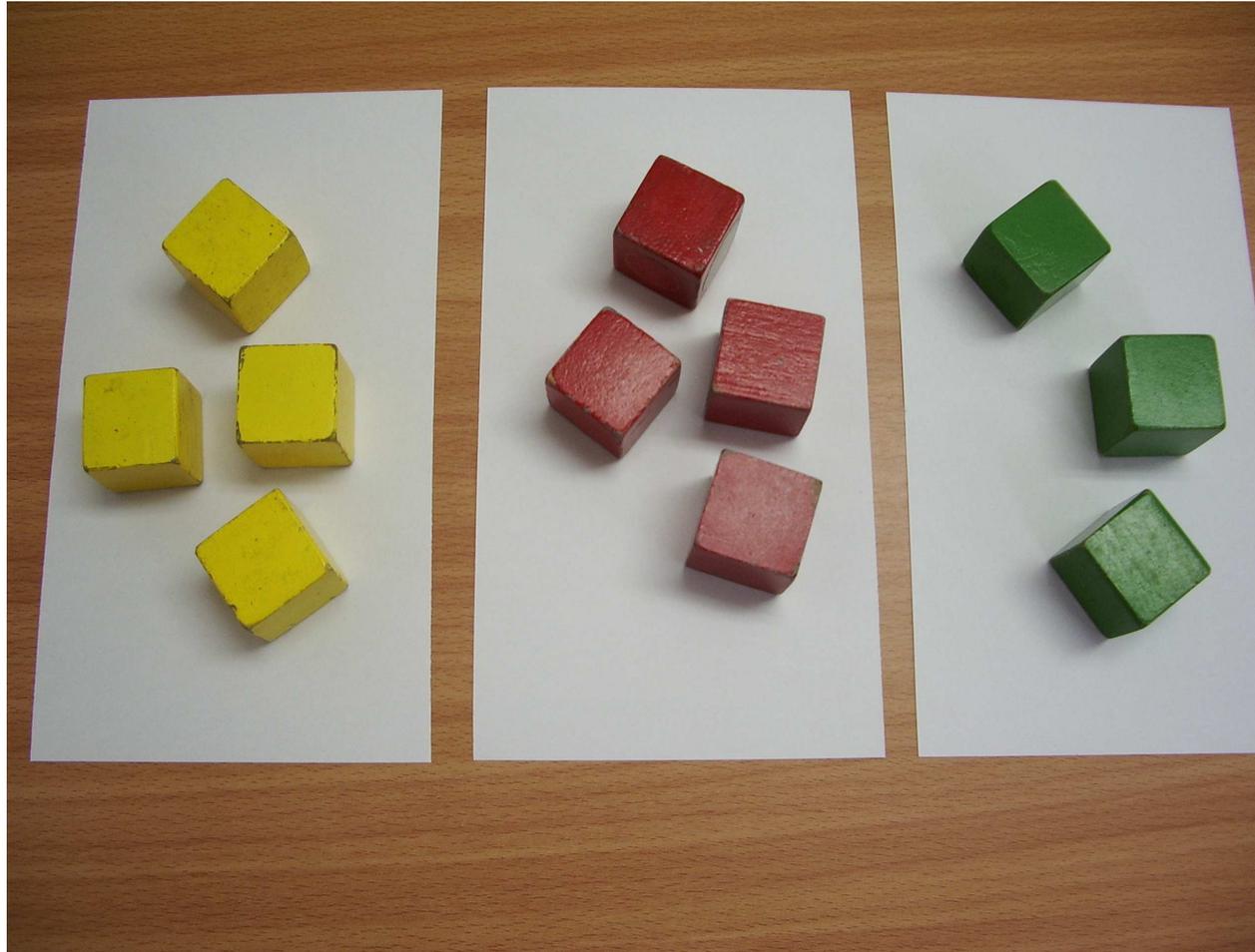
- 事物名と色名の対連合の形成

↓ :りんごのアカはどれ？

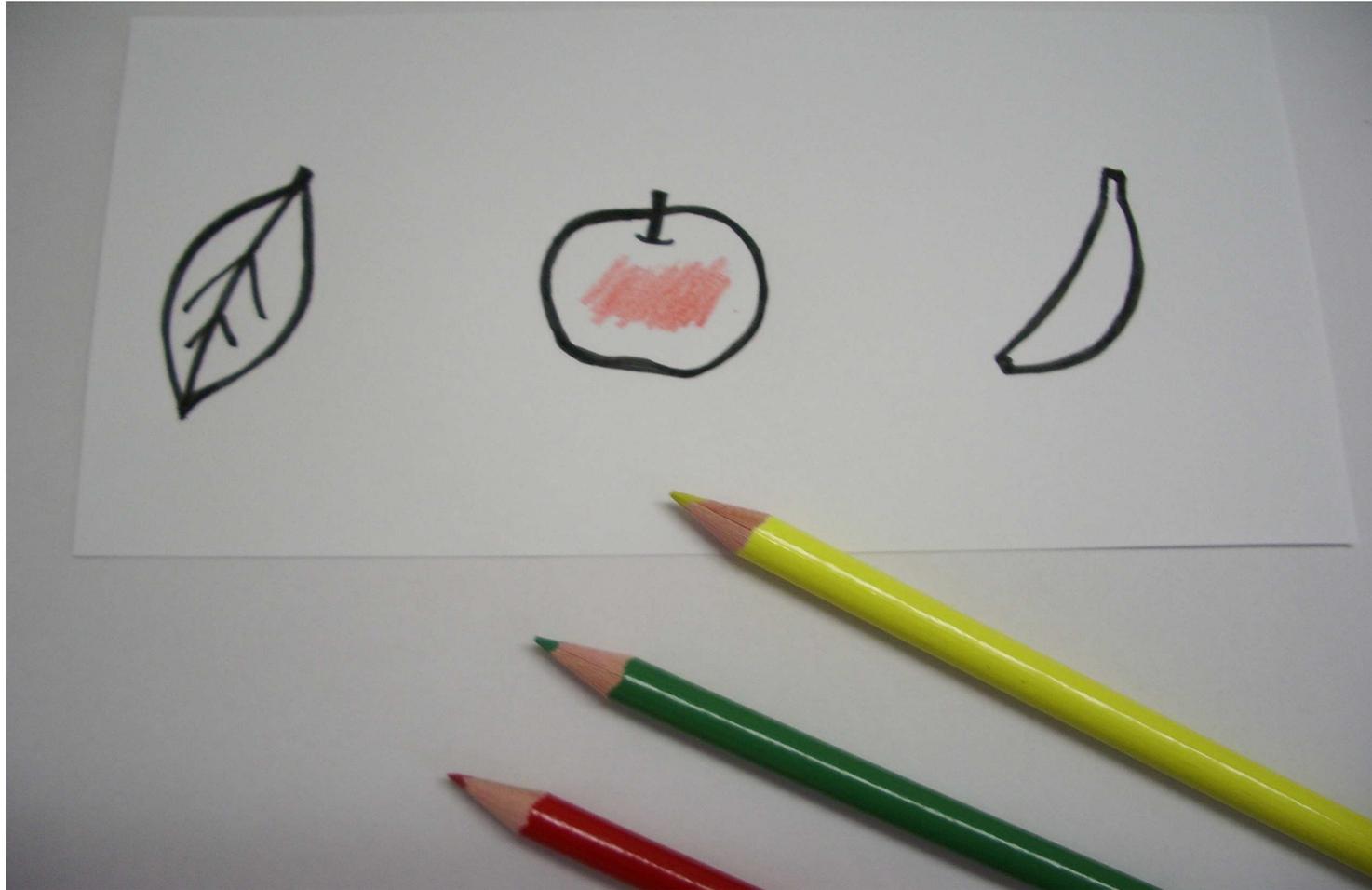
- 色名の独立

:アカはどれ？ / 「アカのくつ！」

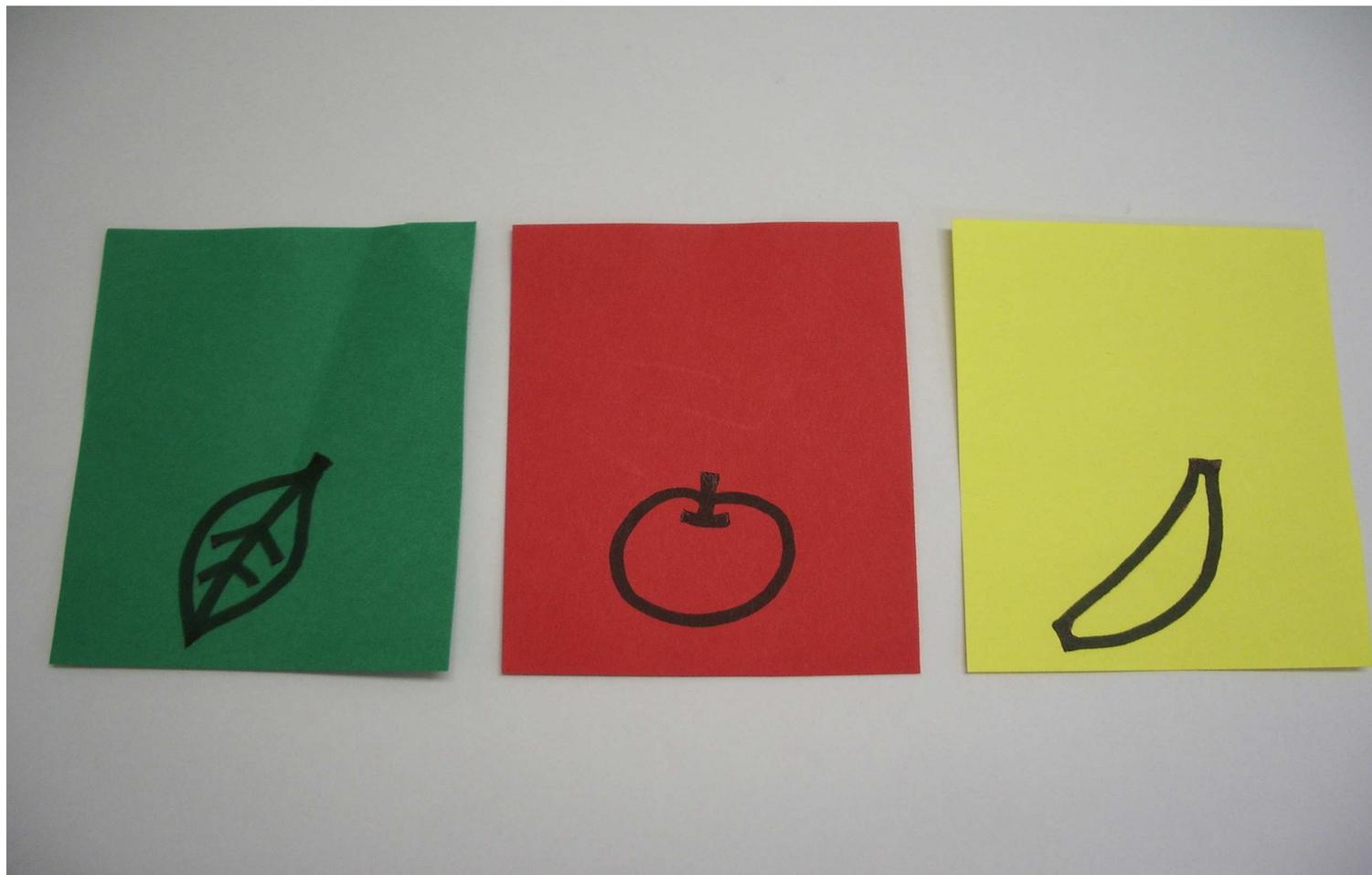
●色の異同弁別



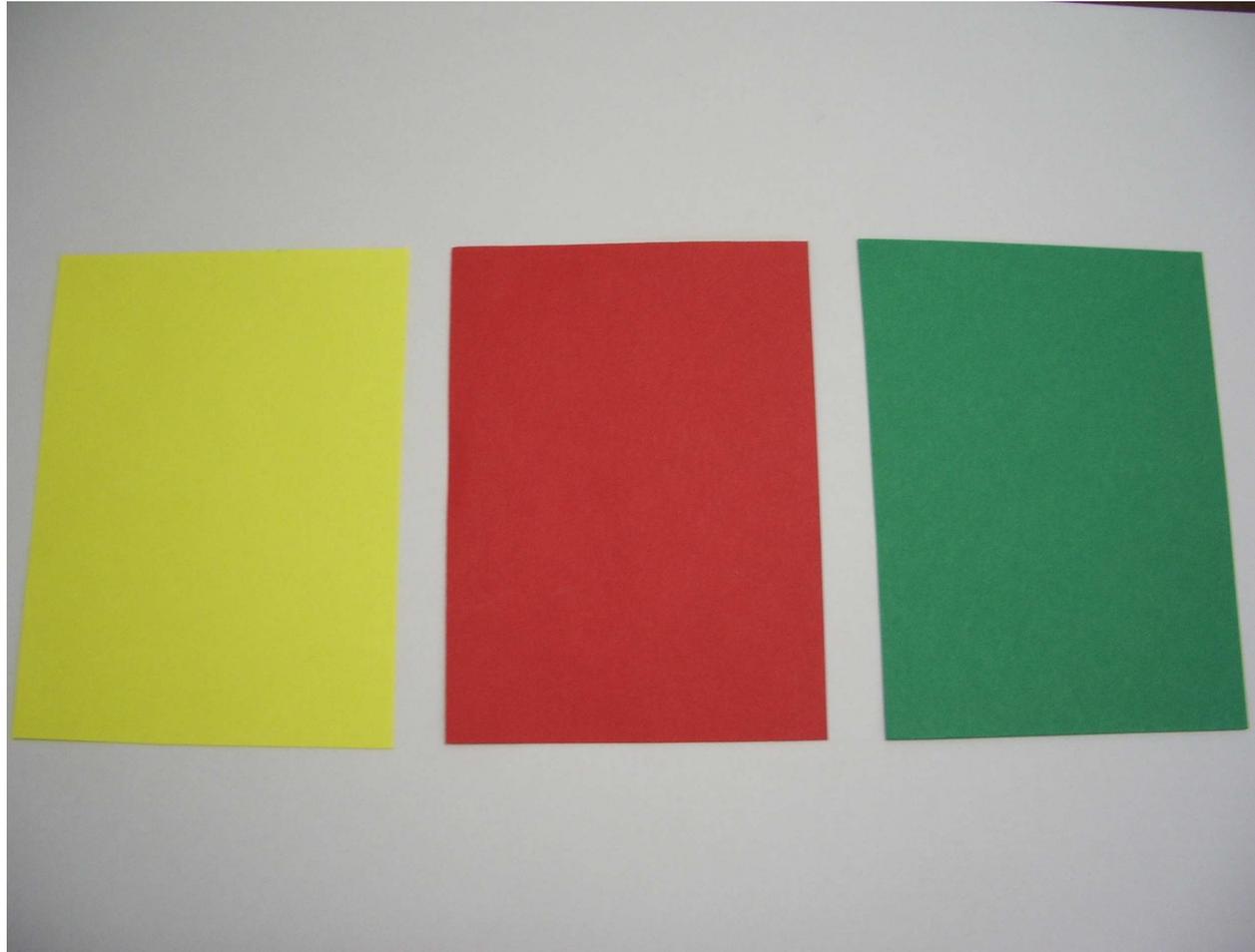
● 事物の属性の概念の形成



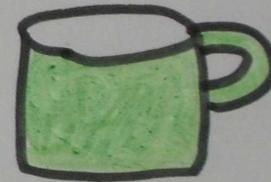
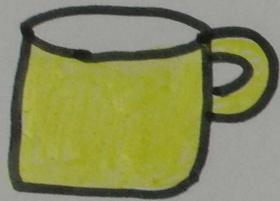
● 事物色名の学習



● 事物名と色名の対連合の形成
→ 色名の独立



● 事物の属性としての把握



語彙指導のいろいろ

- 文字記号を媒介とした学習
- 反対語の学習
- 語結合を用いた学習
- 動詞・形容詞の活用・助動詞の学習

●漢字カード

小

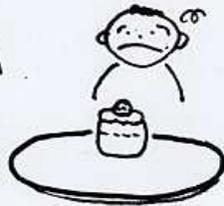
大

207

ちいさい

小さい

・しょう



205

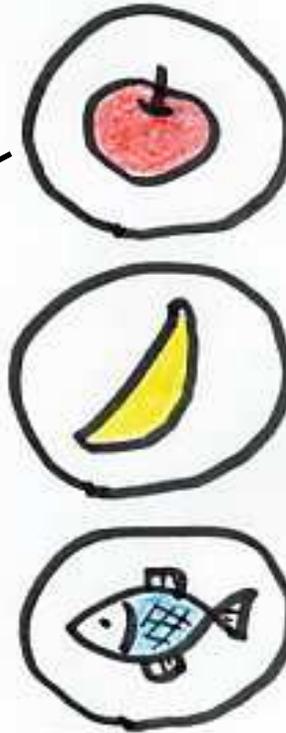
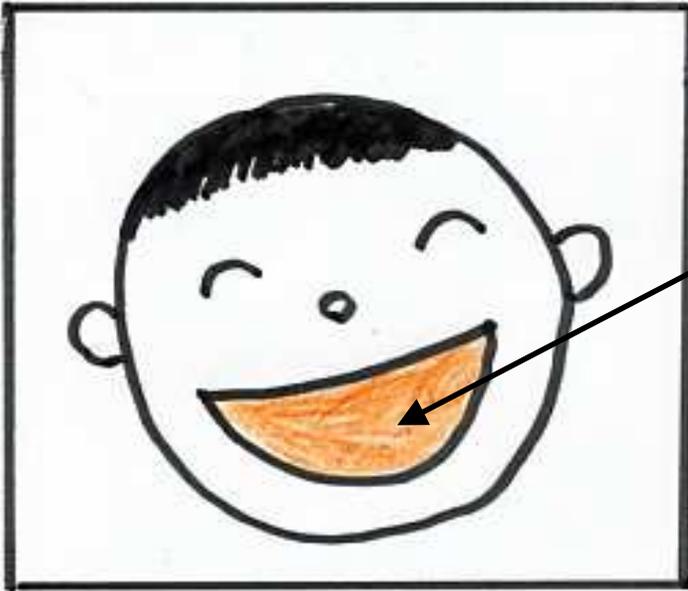
おおきい

大きい

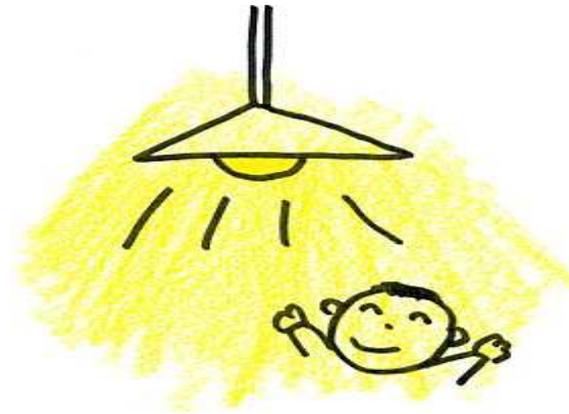


● 語結合を用いた学習

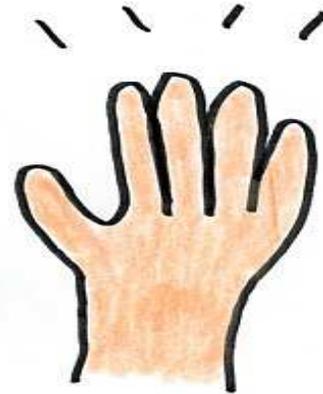
～を 食べる



● 反対語の学習

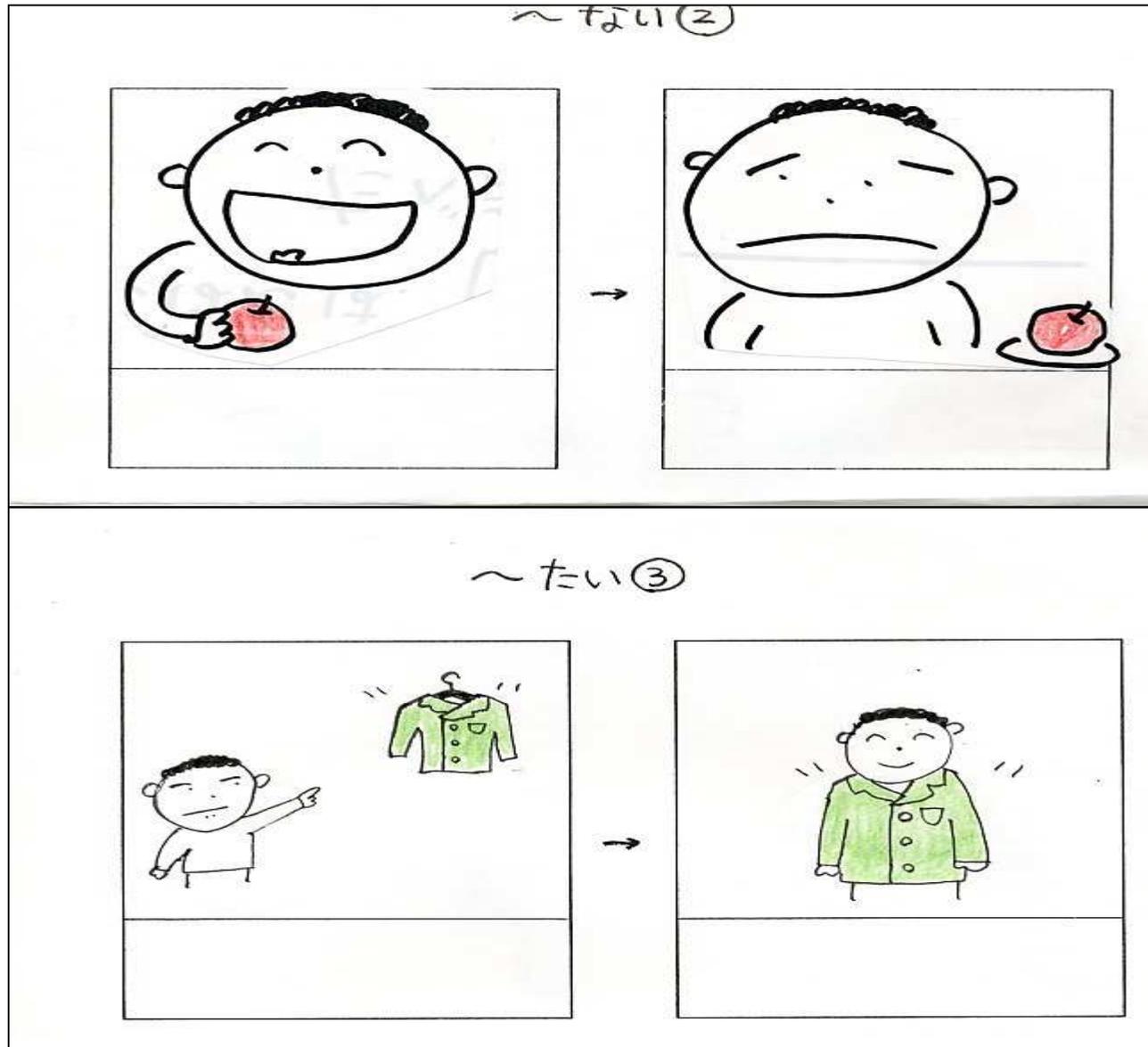


くらい ↔ あかるい



きたない ↔ きれい

● 動詞・形容詞の活用・助動詞の学習



家庭でのコミュニケーションの中で

●ことばに触れる

- ◆ 経験・・・する・見る・聞く・触れる・嗅ぐ・味わう...
- ◆ 事象の言語化・・・事物・動作・状況・感情...
- ◆ 身振り・オノマトペの共起
- ◆ 心理的共有

●ことばを広げる

◆意味的随伴性

①リキャスト(文法情報を加える応答)

子:「ワンワン ネル」

母:「ワンワンガ ネットルネー」

②拡充(意味を広げる応答)

子:「ケーキ」

母:「ケーキ オイシイネー」

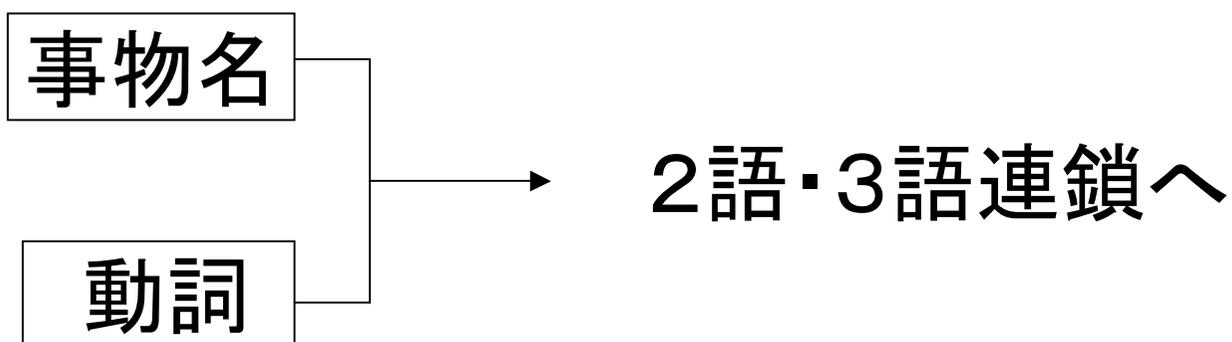
③継続(関連のあることを言う応答)

子:「アメ フツテル」

母:「カサナイト ヌレチャウネ」

●ことばを引き出す

◆要求伝達場面の設定:



◆語想起:

* 眼前にない事象(事物や事柄)の伝達

おわりに

言語指導



自然習得の機能を作るためのサポート



どのような指導に、どれほどの時間と
労力を かけてゆくか

【参考図書】

○「ことばの発達と障害」 大修館書店 第1巻～第3巻

○「言語聴覚療法 臨床マニュアル」

協同医書出版社

○「語彙の研究と教育」 国立国語研究所 大蔵省印刷局

○「日本語教師のための新しい言語習得概論」

スリーエーネットワーク

○「発達に遅れがある子どもの国語」 学研

